

## 議 事 録(概 要)

会議名	令和5年度 第3回守山市生涯歯科保健推進協議会
開催日時	令和5年10月26日(木) 午前10時から午前11時まで
開催場所	守山市保健福祉センター 3階 講習室
委員出席者	大谷委員、松川委員、中島委員、藤澤委員、西郡委員、野々村委員、戸梶委員、兼松委員(10名中8名出席) 欠席: 今井委員、川田委員
事務局	健康福祉部 高橋理事 すこやか生活課 堀江課長、川中参事、清水衛生士、岩波主任、大田事務員
傍聴者	なし
会議次第	1 開会 2 協議事項 (1) 第3次健康もりやま21(案)について 3 閉会
会議資料	資料1 第3次健康もりやま21(案)について 別紙1 第2次健康もりやま21からの変更イメージ 別紙2 第3次健康もりやま21(案)概要 別紙3 第3次健康もりやま21(案)概要版 別紙4 第3次健康もりやま21(案)

### 1 開会

### 2 協議事項 (1) 第3次健康もりやま21(案)について

事務局	資料1、別紙1から別紙4の前半まで説明。
大谷会長	説明について質問はあるか。
松川委員	第3次健康もりやま21になった時に、生涯歯科保健推進協議会は、発展的解消になるということによいか。
事務局	次期計画では一体的な推進を行うため、守山市健康づくり推進協議会の中で歯科の協議実施を行いたいと考えている。
西郡委員	別紙4の51ページの育ちの世代で、歯と口腔の「定期的な歯科受診」が育ちの世代に入っていないのは理由があるのか。
事務局	育ちの世代では、歯みがき習慣やフッ化物での予防を習慣づけることが大事と考えているため。しかし、受診の必要性は認識をしていることから、記載については検討をしたい。

大谷会長	他に質問はあるか。
戸梶委員	別紙4に記載されている市民の目標は、市民が参照するものなのか、関係機関向けの資料なのか。
事務局	別紙3の中面に市民の行動目標だけを抜き出したものを記載している。市民に向け、記載内容を実行すると健康になっていく視点でみていただきたいと考えている。
戸梶委員	大谷会長への質問。 適切なブラッシングについてであるが、フッ素・フッ化物を用いた歯磨き粉を用いると口腔の健康が保たれるときいた。市民の目につくようなところで、フッ素の広報は必要ではないか。
大谷会長	ドラッグストアで売っている歯磨き粉には濃淡はあるが、フッ素が配合されている。歯科医院で販売しているような専門用具を使うことも良い。
中島委員	歯科医院に行くと、フロスを進められる。フロスの記載も必要ではないか。
大谷会長	フロスもとても重要。アメリカでは歯ブラシよりもフロスを持ち歩く人がいるくらい。
中島委員	計画の中に、ブラッシングだけではなくフロスのことも記載してはどうか。
事務局	検討する。
大谷会長	他に質問・意見がなければ、後半の説明を願いたい。
事務局	別紙4の後半について説明
西郡委員	別紙3に記載の「定期的に歯科健診を受診する者」の割合はどの年齢層への調査で確認するのか。
事務局	市民アンケートの結果からの記載である。市民アンケート調査は、15歳から74歳までの方に尋ねている。
松川委員	別紙3の裏面で守山市の健康課題の中で、子宮頸がん検診の部分は、健診受診率の低迷だけではなく、子宮頸がんワクチンの推進の記載をしてほしい。中高生への子宮頸がんワクチン推進も必要である。
大谷会長	個人の判断での接種に今なっているのでしょうか。
松川委員	ワクチン接種の積極的勧奨をやめていた時期があっただけで、ワクチン接種は行っていた。
戸梶委員	判断力の少ない若者のためにもっと積極的に市や医師会から安全である情報を広報してあげてほしい。
松川委員	守山市は、ワクチンの重要性など予防接種の普及については実施さ

	れている。
野々村委員	本協議会においては、生涯歯科の話を中心にするのか、計画全体の話をするのか、協議会の主旨が分からなくなっていないか。
事務局	歯と口腔の話を中心にさせていただき、第3次健康もりやま21では、一体的な計画とすることから、全体についてもお話いただければと思っている。
野々村委員	歯科の意識は患者を診ていても高まっていると感じている。また、病院では口腔ケアに力を入れており、肺炎を起こす人が少なくなっている。高齢者の歯を残すことも大事であるし、歯周病対策も、口腔衛生を保つことの重要性は感じている。認知症のある人は口を開けていられない等があり、その方のケアは家族ではどうするのかも課題であると感じている。口腔ケアの指導を専門の先生から指導してもらうなどの視点も必要ではないか。
松川委員	歯科保健の会議は、守山市健康づくり推進協議会の中の一分野として実施されることになるのか。
事務局	健康づくり推進協議会の中で歯科も食育・健康づくりと合わせた一体的な議論をしていただきたい。現行の生涯歯科保健推進協議会の委員の方にも参画していただきたいと考えている。
戸梶委員	生涯歯科保健推進協議会がなくなり、歯科衛生士人員を減員したことは、守山市の今後の方針や意向として先駆的に取り組んできた歯科保健を消極的へ方向転換するという事か。
事務局	市として、決して歯科保健について軽んじているということではなく、今までどおり重要と考えている。 生涯歯科保健推進協議会が必要なくなったということでは全くない。計画の建付けも変更になったことから、専門性のある方に集まっていたいただき、一体的に健康づくり推進協議会の場で健康づくりについて検討いただきたいと考えている。
藤澤委員	小学校では、本協議会の第1回目ではコロナが明けてすぐであったこともあり、フッ化物洗口は実施していたが、昼食後の歯みがきも積極的に実施をできていない状況であった。今はコロナ前と同じようにできるようになっており、喜んでいる。 71ページの啓発方法であるが、ペーパーレスが進んでおりいい面もあるが、パンフレットなどの紙での啓発もまだまだ必要である。みのりの世代に対しては特に紙での啓発が有効であると感じるので、啓発方法も検討してほしい。

事務局	世代やその人に応じた啓発方法を用いて実施していく。
野々村委員	病院でも詳しい内容の確認はホームページに誘導したり、郵送物にQRコードを付けた啓発も実施したりしているが、実際に見ている人は少ない印象がある。
大谷会長	他に意見はないか。
野々村委員	先ほど、生涯歯科保健推進協議会を健康づくり推進協議会に集約化という話が出ていたが、いろいろな専門家が集って4分野の話をするといろんな意見が出ることになり、健康づくりの協議をするというのはとても良いことだと感じている。しかし、専門的な課題が出た時には、コアメンバーを集めて、早期に課題解決当たるような仕組みがあるとより良いと考える。
大谷会長	他に意見が無ければ、本協議会を終了する。

### 3 閉会